

いわさき
ちひろ
生誕
100年

「いわさきちひろが大切に描いたもの」『Life』。
「いわさきちひろの生誕100年にあたる2018年、いわさきちひろと、ままな分野で
活躍する七組の作家が『Life』をテーマに『コラボレーション』展を行います。

1



Life展

作家で、母で

をつくる

そだてる

「コラボレーション作家」

長島有里枝

十一月三日(土祝)ー二〇一九年一月三十一日(土)

ちひろ美術館東京

「つくり続けることの強さとやわらかさ
記憶や身近な人との関係性を手がかりに、自身のラ
イフヒストリーや社会の陰に隠れてきた女性の創造
性に光をあてる作品を制作してきた長島有里枝。そ
の視点はいわさきちひろの作品と響きあいます。女
性に課せられる規範と折り合いをつけながら表現を
おこなうふたりの生き方が交差します。既成の価値
観に疑問を呈し、アートを通じてゆきづり続ける長
島とのコラボレーションにより、ちひろ作品の魅力
が解き放たれます。

特別協賛株式会社シタウエ

協賛株式会社ニコン株式会社「コラボレーション」展

協力キーン株式会社 MAHO KUBOTA GALLERY

2



3



4



5



6



7



8



9



10

いわさきちひろ

一九一八年～一九七四年

福井県武生(現・越前市)生まれ。東京で育つ。東京府立第六高等学校卒業。一九五〇年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。同年、松本善明と結婚、翌年、長男猛を出産。一九五六年、小学館児童文化賞、一九六一年、産経児童出版文化賞、一九七三年「こころのくるひ」(至光社)でポロニーヤ国際児童図書展グラフィック賞を受賞。一九七四年、肝臓ガンのため死去。享年五五歳。

長島有里枝

一九七三年～

東京都生まれ。現代美術作家。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。カリフォルニア芸術大学MFA修了。二〇〇一年、第二十六回木村伊兵衛写真賞受賞。二〇一〇年「背中」の記憶」で第二十六回講談社エッセイ賞を受賞。自分や家族、友人など、身近な人や品物を題材に、写真や文章、インスタレーション作品を制作する。

長島有里枝からのメッセージ

私は、ちひろさんが子どもを数多く描いたのは、ちひろさん自身が子どもの心を持っていたからではないか、と思うのです。彼女が描いた子どもの多くは、大人が求める姿ではありません。その視線はまるで、自分を見ているかのように対等です。

作家であり、母であり、女性である。そういう意味で私とちひろさんには共通点がある、ともいえますが、私が最も共感を覚えるのは作家としての彼女です。好きなことを続けるには、自分を信じるしかないから、人にも寛容になれるのかもしれない。ちひろさんのやわらかさがそのようなものだとしたら、ちひろさんが「絵を描くことを深く愛した人」だったことに注目すべきだと思います。

展覧会の見どころ

〈描くことを愛した人〉

画家であり、母であったちひろの軌跡に沿って、長島が選んだちひろの絵をちひろの言葉とともに展示します。ちひろのなかにあつた子どもと共振する感性や、自身の価値観を信じて到達した画境を紹介します。

〈「家庭」を通じて見えてくるもの〉

長島にとって、日々の暮らしに子どもを迎え入れることは、アーティストとしてのひとつの転機となりました。これまで発表を控えていたわが子が幼いころの姿を撮った写真を展示します。そのほか、長島の近作のひとつ「家庭について/about home」を、ちひろが家庭での日常風景をとらえた素描とともに再構成して展示します。誰にとっても自明なようでいて、実は曖昧な「家庭」という概念をふたりの作品を通して見つめます。

〈ふたりの想い〉

二〇〇一年の米国同時多発テロを妊娠中にテレビで目撃した長島は、戦争が遠い場所や過去のものではないことを実感し、二〇〇四年から、第二次世界大戦中に日本の女性たちが行った「千人針」をテーマにした作品に取り組み始めました。二〇〇五年に発表された「Her Projects - memories of no one」を軸に、ちひろの絵とともに構成するインスタレーション作品を展示します。過去から未来に向けて、ふたりの想いが交錯します。

関連イベント

〈鼎談〉

〔日時〕十一月二十五日(日)午後二時～ | 講師 長島有里枝(アーティスト)、高橋朗(PG&Gギャラリディレクター)、中村史子(愛知県美術館学芸員) [定員] 五〇名(要申込み) 十月二十五日(木)受付開始(電話・WEBサイト・来館) [参加費] 無料(入館料別)

〈感謝デー〉

〔日時〕十二月十五日(土) ちひろ一〇〇歳の誕生日
入館無料

関連書籍

『いわさきちひろ生誕一〇〇年 The Chihiro Iwazaki 100』
長島有里枝のインタビューも収録 二〇一八年三月一日刊行 一三〇〇円(税別)

開催要項

〔展覧会名〕いわさきちひろ生誕一〇〇年「母」展作家
で母でつくるそだてる 長島有里枝【会期】二〇一八年十一月三日(土)祝～二〇一九年一月三十一日(木)〔開館時間〕午前十時～午後五時(入館は閉館の三十分前まで)〔休館日〕月曜日・年末年始(十二月二十八日～一月一日)(祝休日は開館、翌平日休館)冬期休館(二月一日～末日)〔入館料〕大人八〇〇円/高校生以下無料/〔寄展バスポート〕一〇〇〇円

お問い合わせ

本展覧会を、紹介いただける場合に、リリース内に掲載の作品画像データをお貸し出しいたします。ご希望の場合は、左記担当までご連絡ください。

ちひろ美術館・東京 広報担当 高津 北村

〒一七七・〇〇四 東京都練馬区下石神井四・七二

電話 〇三・三九五・〇七七(二業務用) [電送] 〇三・三九五・〇六八〇 [Eメール] publicity@chiro.or.jp

1. いわさきちひろ 箱に入った少女「お母さんのくちくち」(至光社より一九六九年)

2. 長島有里枝 Life 44 from the series 家庭「いつ/about home」(〇一五年) ©Yurie Nagashima / MAHO KUBOTA GALLERY

3. 長島有里枝 Masashi Asada

4. 長島有里枝 Her Projects - memories of no one (二〇〇五年) (KONAN) (大塚) ©Yurie Nagashima 橋本 大塚 徳川

5. 長島有里枝 From Blankety from the series 家庭「いつ/about home」(〇一五年) ©Yurie Nagashima / MAHO KUBOTA GALLERY

6. 長島有里枝 無題 (二〇〇四年) ©Yurie Nagashima

7. いわさきちひろ 大きな顔の画像

8. いわさきちひろ はたかんのぼろ(ちひろちひろ)

9. 長島有里枝 From the series 5 comes after 6 (二〇一四年) ©Yurie Nagashima / MAHO KUBOTA GALLERY

10. いわさきちひろ 戦争「いつ」(母ちゃんはお母ちゃん) (新日本出版社より) 一九七二年

11. いわさきちひろ 誰(二〇〇年) サークル

ちひろ美術館公式サイト
chihiro.jp

